

スローカロリーシュガー摂取による高齢糖尿病患者への血糖に与える影響

森村優子、村山彩華、野田万美子、高橋由紀、西村一弘
駒沢女子大学 人間健康学部 健康栄養学科

背景

糖尿病治療においては食事療法が治療の基本であり、合併症予防のために早期からの血糖コントロールが不可欠となる。しかし高齢者では、血糖コントロールを目的とした糖質（炭水化物）や蛋白質制限により、低血糖や筋肉の減少、低栄養を来す可能性がある。

方法

砂糖と同等のエネルギーを有する一方で、消化・吸収速度が遅いため食後血糖値の急激な上昇を抑える性質を有するスローカロリーシュガー（SCS）の長期摂取が、高齢の糖尿病患者の血糖コントロールおよび薬剤の処方量、体重の変化に与える影響を検討した。

介護老人保健施設に入所中の70歳以上の糖尿病患者11名（男性2名、女性9名）を対象として、2週間以上、SCSを摂取してもらった。診療記録から空腹時血糖値および血糖降下薬、体重に関するデータを抽出し、入所時（ベースライン時）からSCS摂取後の血糖コントロール、薬剤の処方量、体重の変化を比較した。うち血糖降下薬を使用していない1名については、持続型血糖測定器（FreeStyle リブレ）を用いて血糖変動を確認した。

2週間以上の記録データを有する9名（全例女性）を解析対象とした。9名中、8名が血糖降下薬を使用していた。SCS摂取後、血糖降下薬を使用している8名中6名で薬剤の処方量が減少し、うち3名で体重が減少した。薬剤の処方量に変化がなかった1名については、体重が増加する一方で血糖値が安定した。血糖降下薬を使用していない1名は、血糖値が低下・安定した。

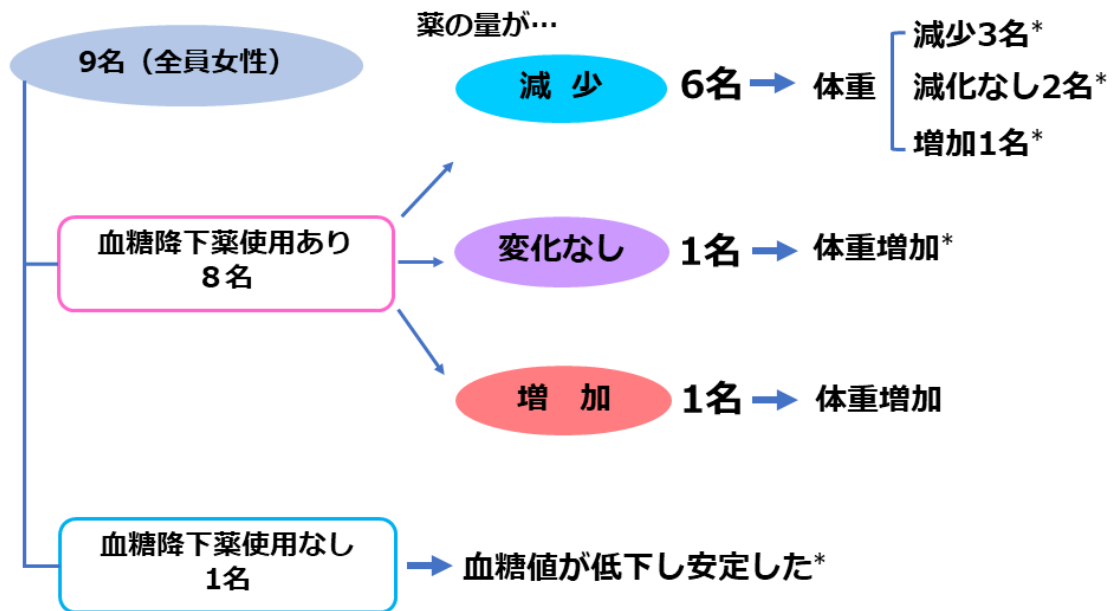
結論

解析可能であった9名のうち8名にSCSによると思われる影響が認められた。SCSを長期摂取することで、体重や血糖コントロールの改善、薬剤の処方量の減少など、良好なアウトカムが得られる可能性が示唆された（図）。今後、全例にリブレを用いた長期試験を予定している。

謝辞

本研究は第22回日本病態栄養学会年次学術集会（2019年1月11日～13日パシフィコ横浜）において、卒業研究として発表された。本研究を実施するにあたりご協力、支援を頂いた三井製糖株式会社及び緑風荘病院の管理栄養士の方々、介護保険施設グリーンボイスに感謝致します。

(図)



*SCSによると思われる影響が認められた例